

平成30年度

長岡京市立中学校米国短期交換留学事業

米国マサチューセッツ州 アーリントン訪問報告書

長岡京市立中学校米国短期交換留学協議会

はじめに

This year we had another wonderful trip to Arlington. Before speaking about the trip itself I think we need to talk about the students. We always have difficult choices to make about which students should come to Arlington and these choices are so difficult because we have so many great applicants.

It is particularly difficult for me to judge these students because I have taught them for four years and their growth in English and as young adults is just astounding. It is not easy to go through this process but they do it valiantly. For those chosen, the results are even more remarkable.

Their changes throughout the year are subtle but consistent and in the end it is as though they have unlocked another part of themselves. They only started learning English a short time ago, but by the time of our trip were using complex gestures, making and giving their own speeches, and even laughing at jokes—they are wonderful examples of the power of perseverance.

The trip itself was excellent as well. We had a few days of cool or rainy weather but overall it was exemplary of Boston in late April and early May. The people of Arlington were welcoming, helpful, and happy to have us. Many families have now become annual hosts and the cultural understanding of the Arlington community becomes stronger every year.

Overall, I am proud. I am proud of Arlington for being so hospitable and welcoming. I am proud of Nagaokakyo for continuing to support such an excellent program and endeavor in creating a global community. And most of all, I am proud of the students who fought to speak English and live in a different culture, and who proved themselves to be absolutely worthy of such a challenging and rewarding program.

Captain Conor Boyle

今年もアーリントンへの訪問は素敵なものでした。訪問について述べる前に、生徒について触れておく必要があると思います。アーリントンを訪問する生徒の選考では難しい決断を迫られます。素晴らしい生徒が沢山応募してくれるからです。

私は長岡京市に来て4年になります。選考では英語を教えたことのある生徒もあり、彼らが驚くほど成長した姿を目にすると、選考で生徒の評価をすることは辛い作業になりました。選考を通過することは簡単なことではありませんが、生徒達は全力を尽くしました。

生徒達は一年を通して少しずつ変わっていきました。最後にはまるで生まれ変わったかのように成長を遂げました。英語の学習を始めたのはついこの間なのに、アーリントンに出発する頃には、様々なジェスチャーを使いこなし、自分自身の言葉で語ることができ、英語でジョークも理解できるようになりました。忍耐強く取り組んできた成果が表れていると思います。

アーリントンへの旅は素晴らしいものでした。4月下旬から5月にかけてのボストンを象徴するような肌寒い雨の日もありましたが、アーリントンの人々は親切で、温かく、喜んで私達を受け入れてくれました。アーリントンには毎年ホストファミリーになってくれる家庭が沢山あります。アーリントン地域での日本文化への理解は年々深まってきています。

私達を温かく迎え入れ、誠意をもってもてなしてくれるアーリントンを誇りに思います。そして、このような素晴らしいプログラムを支え続け、国を超えたつながりを創り出した長岡京市のことも誇りに思います。一番誇りに思うのは、異なる文化圏で生活し、英語を話すために一生懸命頑張った生徒達で、その生徒達の存在が、このプログラムを有意義で、やりがいのあるものにしていると信じています。

アーリントン訪問団 団長 ボイル・コナー

目 次

はじめに

I 訪問の部

- 1 訪問団員名簿・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 2 訪問日程・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 3 生徒感想文・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 4 アーリントンだより・・・・・・・・・・・・ 22

II 来訪の部

- 1 訪日団員名簿・・・・・・・・・・・・・・ 58
- 2 訪日日程・・・・・・・・・・・・・・ 59
- 3 訪日団引率者挨拶・・・・・・・・・・・・ 60
- 4 訪日団生徒挨拶・・・・・・・・・・・・・・ 63
- 5 アーリントン訪日団友好紀行・・・・・・・・ 66

I 訪問の部

1 訪問団員名簿

中学生訪問団

	氏 名	読み	性別	学校等	学年等
1	竹本 諭宜	たけもと ゆうき	男	長岡中学校	2
2	小橋 美月	こばし みづき	女	長岡中学校	3
3	田中 道生	たなか みちお	男	長岡中学校	3
4	片山 知実	かたやま ともみ	女	長岡中学校	3
5	山本 咲楽	やまもと さら	女	長岡第二中学校	3
6	松本 颯生	まつもと さつき	男	長岡第二中学校	3
7	時田 凜香	ときた りんか	女	長岡第三中学校	2
8	松尾 そら	まつお そら	女	長岡第三中学校	3
9	渡邊 こころ	わたなべ こころ	女	長岡第三中学校	3
10	伊藤 しずく	いとう しずく	女	長岡第三中学校	3
11	岡本 直也	おかもと なおや	男	長岡第三中学校	3
12	大幸 香央子	おおさか こおこ	女	長岡第四中学校	3
13	竹下 明佑美	たけした あゆみ	女	長岡第四中学校	3
14	岡嶋 大地	おかじま だいち	男	長岡第四中学校	3
15	千崎 優花	せんざき ゆうか	女	長岡第四中学校	3
16	江川 珠奈	えがわ みな	女	長岡第四中学校	3
17	ボイル・コナー	ぼいる・こなー	男	長岡京市AET	団長
18	水野 香里	みずの かおり	女	外国語活動指導員	引率
19	藤原 麻紀子	ふじわら まきこ	女	外国語活動指導員	引率

高校生訪問団

1	佐々木 信壱	ささき しんいち	男	西乙訓高校	2
2	上地 珠央	かみじ たまお	女	西乙訓高校	2
3	完山 花	かんやま はな	女	西乙訓高校	2
4	津村 美侑	つむら みゆう	女	西乙訓高校	2
5	宮城 楓	みやぎ かえで	女	西乙訓高校	2
6	大道 昭裕	おおみち あきひろ	男	西乙訓高校教諭	引率

2 訪問日程

※日本滞在中は日本の時刻、米国滞在中は現地時間の表記となる。

月 日 (曜日)	時 刻	行 程
4 月 25 日 (水)	11:15 14:35 15:55 18:10 17:55	長岡京市 発 伊丹空港 発 成田空港 着 成田空港 発 ボストン空港到着後、各ホストファミリー宅へ移動
4 月 26 日 (木)	9:00 11:30	ウィルソンファームツアー フェンウェイパークツアー 州議事堂見学 フリーダムトレイルツアー
4 月 27 日 (金)	7:45 19:00	アーリントン高校で朝食 ジェイソンラッセルツアー オトソン中学校で観劇
4 月 28 日 (土)		ホストファミリーデー
4 月 29 日 (日)		ボストン日本祭りに参加
4 月 30 日 (月)	8:15 19:30	オトソン中学校で交流プログラムに参加 アーリントンテレビ局訪問 イーグルスデリで夕食 (ハンバーガー) タウンミーティング見学
5 月 1 日 (火)	10:00 16:00 17:00	ビショップ小学校 集合 2 年生と文化交流 ハーバード大学見学 レッドソックス試合観戦
5 月 2 日 (水)	10:00 14:00 15:00	クジラ観測船乗船 水族館見学 クインシーマーケットでショッピング
5 月 3 日 (木)	8:30 18:00	技術専門学校訪問 レキシントン、コンコード見学、ミニッツマンツアー
5 月 4 日 (金)	13:20	ボストンローガン空港発
5 月 5 日 (土)	16:00 18:25 19:50 20:40 21:30	成田空港 着 成田空港 発 伊丹空港 着 伊丹空港 発 長岡京市 着

3 生徒感想文

長岡中学校 2年 竹本 諭宜

アメリカに行って一番印象に残っているのは、アメリカの学校訪問の時で、アメリカの学校と日本との違う所は四つあると思いました。

一つめは、授業中におかしを食べたりしてもいいということです。日本では先生にすぐ怒られてしまうので、とてもびっくりしました。

二つめは、タブレットをノートのように使っていることです。日本でも、たまにタブレットを使うことがあります。しかし、アメリカでは、生徒一人一人に、専用のタブレットがあり、毎日使っています。

三つめは、高校のスケールが大学並に大きいということです。アメリカの高校は、1つの州に1つ高校があって、その分、1つの高校にたくさんの人がくるので、日本では考えられないぐらい大きくなります。

四つめは、授業の時間が早く終わることです。アメリカでは、1コマ約一時間5分が4コマあるという時間割です。そのため約午後一時には授業が終わります。

アメリカに訪問団員として行って思ったのは、アメリカでは、日本よりしめつけがなく、自由に物事ができることです。アメリカの文化もあって、アメリカの人は、とてもフレンドリーで自由です。日本は、自由というより、自立できるよう手伝ってくれて、ある程度の自立を保障してくれます。このように、日本とアメリカ、文化のまったく違う国に行って、どちらもいい所があって、どっちがいいとはいえないけれども、アメリカのことを知れて自分のものを考える視野が広がっていると思いました。アメリカと日本、まったく違う国でそれぞれ良い所があって、それは人も同じだと、行ったことで分かりました。

長岡中学校 3年 小橋 美月

「日本に帰りたくない。」これは、私がアーリントンで何度も言ったセリフです。私は合格してからもずっと、このプログラムに参加していることの実感が湧いていませんでした。しかし、飛行機に乗った瞬間、この気持ちはなくなり、日を重ねるにつれて、ずっとこの日々を送っていたい、と思う気持ちが強くなっていました。本当にこの日々は毎日充実していて、楽しかったです。

そんな最高の日々の中、大切だなと思ったことが二つあります。

一つは自分からコミュニケーションをとりにいくことです。私がホストファミリーと暮らす中で、洗濯物がなかなか返ってこないことを言い出せませんでした。しかし、現地の学校の授業ではみんなの発言が盛んでとても面白かったし、生活ではホストファミリーの方から、これは気に入ったか、あれは楽しかったかとか聞いてくれました。それを見習って私は洗濯物について尋ねると、笑顔で返してくれました。これらの事から、もじもじせ

ず、自分から他人に話しかけることは大切だなと思いました。これは自分が困った時の解決の初めの一歩になると思うし、初めて会った子ともすぐ仲良くなれるきっかけにもなると思いました。

もう一つは笑顔でいることです。私が現地で緊張していた時でも、話しかけてくれる人が笑顔だったり、鳴子を踊っていた時も、観客がとびきりの笑顔で見てくれていた時も、心の中に安心感が生まれました。また、現地の高校生の歌、中学生の劇の人みんなが笑顔だったので、見ているこちらも自然と笑顔になったし、楽しい気持ちになりました。だから日本の日常生活の中でも、笑顔でいることを心掛けて生きていきたいと思いました。

この二つを私は、現地で大切だと感じました。もちろんただ感じた、で終わらず、実際にそのように行動していきます。そしてその私の行動で周りの人にも、このアーリントンで学んだことを伝えていきたいです。

長岡中学校 3年 田中道生

アーリントンに行って、学んだことは、ホストや向こうの友達とコミュニケーションをとる上で、自分が聞きたい文法がわからなかった時に、あきらめるんじゃなくて、ダメもとで話にいくということの大切さです。最初の方、少し恐かったし、ホストと会った時もあまり話せなかったけど、勇気をもってしゃべっていくうちに、聞かれて答えるだけじゃなくて、自分から話題を作って話せて良かったです。

ウィルソンファームやボストンを歩いたり、イーグルスデリでハンバーガーを食べたり、アメリカの文化をたくさん知れました。

農場ではアメリカの自然とか、食物とか花とかについて知って、ボストンを歩いた時は、農場とはうって変わって高いビルとかがあり、ホストの同い年のティミーに思いきって「あのビルがボストンで一番高いの？」と英語できいたところ、Yes と説明がかえってきて、少し勉強になりました。

中学校や高校でも特に日本との違いがたくさんありました。ドアがカード認証で、カードがないと入れなかったり、上ぐつがなかったり、コンピューターが図書室においてあったり、授業はパソコンだったり…。とにかくかたっぱしから質問しまくって、一生懸命に聞いていると、初めは戸惑いとかもあったけど、楽しくなってきました。あと、アーリントンから帰ってきてから調べたことで、とてもおもしろかったのがバーベキューの意味です。まだ真相は分かってないけど、最初のホストにおくった手紙に「私はBBQが好きです」って書いたら、肉を焼くためのものもなくて、近くの家をよんで、持ち寄りで夜ごはんを食べただけでした。調べると、「友達どうしの気さくな集まり」というのも出てきて、そういう意味もあるんだと勉強になりました。

とにかく、アメリカで学んだ1番のことは「コミュニケーション能力の大切さ」だと思うので日本でこれからに生かしていきたいです。

長岡中学校 3年 片山 知実

私はこの十日間、本当に貴重な経験をさせてもらうことができました。日本を出るときは自分の英語力に心配していましたが、アーリントンに着くと、本当に楽しいことばかりでした。今では「アーリントンに帰りたい」と思うほど、私はアーリントンが大好きです。

私はこの十日間で心に残ったことが三つあります。

一つ目は、初対面の人でも気軽に話しかけてくれたことです。私は出発する前、「もっとフレンドリーな人になりたい」と思って行きましたが、“フレンドリーさ”というものは、日本とアメリカの大きな違いだと感じました。町で出会った人やお店の店員さんなど、「Hello!!」から始まり、いろいろなことをたくさん話すことができました。

二つ目は、自分が相手に英語を伝えたいという気持ちさえあれば、必ず伝わるということです。私はアーリントンに行ってから文法を気にしてしまい、積極的に話せないことがありました。初めはジェスチャーを使ったりしていましたが、伝わらないこともあり、正直苦しい時もたくさんありました。しかし、伝わるまで真剣に聞こうとしてくれる人たちの優しさに、私はとても感動しました。

三つ目は、アメリカ人の母国愛や家族愛のすばらしさです。ほとんどの家の前にはアメリカの国旗があり、また、野球の試合観戦の前に流れた国家はみんな大きな声で歌っていました。そして、ホストファミリーの間では、朝起きた時にハグをしたり、「I love you.」と言ったりしていました。日本では恥ずかしくて言えないことが、アメリカでは素直に言っていたので、自分も見習おうと思いました。

この十日間で、私は色々な面でとても成長することができました。学んだことを友達や家族にたくさん伝えていきたいです。今までお世話になった皆さん、本当に感謝しています。ありがとうございました。

長岡第二中学校 3年 山本 咲楽

私がアメリカに行って感動したことは2つあります。

一つ目は学校の校内です。校内は全体的にカラフルで、教室ではなく廊下にロッカーがあることに驚きました。授業中は自由に飲食をしてよいことは知っていましたが、先生もお菓子を食べていたり、自分のすることが終われば、持っているパソコンでアニメや動画を見ている生徒がいて、日本と違い自由なアメリカの国柄を身をもって体験することができました。

二つ目はホストファミリーの優しさとフレンドリーさです。私は自分から会話をしたりすることが苦手で、言語が違う人たちと話すことも正直嫌だと思っていたけど、上手に英文を話すことができなくても待ってくれたり、単語を聞いて私の言いたいことを汲み取っ

てくれて、その温かさに感動しました。ホストファミリーの家族構成は、お母さんとお父さんと私より2つ上の女の子と1つ下の男の子で、お母さんは毎朝集合場所まで送ってくれる車の中で会話が絶えないくらいしゃべりかけてくれて、お父さんは夕食の時しか話すことはなかったけれど、日本語を学ぼうとしてくれて、自分だけが他国の言語を学んでいるわけじゃない、と思うとそれが何より嬉しかったです。男の子は素っ気ないと思っていたけど、ゲームと一緒にやった時、すごいたくさん話せて楽しかったです。女の子はとても可愛くて、一つ一つの食材の事も食べれるか聞いてくれて、つい二週間くらい前に知った私に優しく接してくれて、本当に楽しく過ごせました。

私は今回、新しい英単語などを学べたというよりは、日常生活での単語の使い方や伝え方を自分自身で体験することができました。七月に今度は自分がホストファミリーになるので、自分と同じように日本の事を少しでも学んでもらい、来た意味があったと思ってもらえるような温かさで迎えたいなと思いました。

長岡第二中学校 3年 松本 颯生

まずはじめに、僕はこの取組に参加できて本当に良かったと思っています。日本とアメリカの文化の違いや、アメリカの人々のぬくもりを感じることができました。

1つは、当然ですが、日本との文化の違いです。アメリカは、とても自由性の高いところでした。学校の登校方法から、夜遊びに行った公園など、あらゆるものが自由なんだと感じました。

2つ目は、アーリントンの人々がとても優しくかったことです。これが、僕の心に一番響きました。僕はアメリカに行く前、向こうの方々と上手く話することができるかどうか、とても不安だったのですが、そんな不安はすぐになりました。僕が英語を聞き取れずに何度も聞きなおしても、嫌な顔一つせずに、くり返してくれたのがとてもうれしかったです。その他にも、ドアを開けてくれたり、食べ物を分け合ったり、おたがいに、それぞれが気づかい合える人達なのだなと思い、とても感動しました。

アメリカで成長することができた点や、アメリカ人を見習って相手を気づかえる気持ちを、しっかりと日本のくらしでも生かしていきたいと思っています。

本当に、この年で、このメンバーで、あのホストファミリーでよかったと思っています。行こうかどうか迷っている人は、チャレンジしてみることをおすすめします！

最後に、貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました！

長岡第三中学校 2年 時田 凜香

私はこのアーリントンプログラムは、準備から帰国まであっという間の出来事だったと思います。

まず、最初の学習会の時に、英語しかしゃべってはいけないと言われ、緊張で頭がいっぱいでした。早くて何を言っているのか分からなかったり、知らない単語がでてきたりで、心配でした。しかし、毎週、毎週いっているうちにいつの間にか慣れ、簡単なことは聞き取れるようになっていました。そして、やっと慣れてきたと思っていたら、ホストファミリーも決まり、渡米の日が来ていました。

現地に行き、ホストファミリーに会うと、英語しか本当に通じないということに少し不安を感じました。しかし、ジェスチャーを使ってくれたりとさまざまな工夫をしてくれて、ホストファミリーと話すことがとても楽しいものになっていました。歴史のことについての説明なども、全て英語で難しくて分からないところもたくさんあったけど、毎日の一つ一つのプログラム全てが初めての体験で、とても楽しかったです。朝食も、ホストファミリーからもらう昼食も、夜ご飯も日本とは全然違うものばかりで、おどろきやとまどいもありました。現地の人とは初対面でも日本から来たと言うと、どんどん話しかけてくれて、いろいろとまどっていると、やっぱりさまざまな工夫をして伝えてくれて、話を一生懸命聞いてくれました。本当に優しくおおらかな人が多く、とても助けられました。

このアーリントンプログラムで学んだ、日本との生活、授業の違い、経験などは、私の今後の生活につなげていけるようにしたいと思います。また、アメリカ以外の文化についても生で感じてみたいと思いました。たくさんのことを学び、たくさんのに気づくことができ、とても充実した約半年間でした。

長岡第三中学校 3年 松尾そら

私は今回のアーリントン訪問で学んだ事が大きく分けて二つあります。

一つ目は、家族の間での関わり方です。私はアーリントンに行く前は、どちらかといえば家のことはすべて親に任せて自分は何もしない、ということが多かったのですが、ホームステイ先の子供たちを見ていると、ご飯のお手伝いなど、何か頼まれたら嫌な顔一つとせず進んでやっているととてもすごいと思いました。お弁当も全部自分で作っていたし、私も見習わなければならないと感じました。そして、もう一つすごいと思ったことは兄弟の仲の良さです。まずケンカがないし、協力し合ったりしているところです。私は兄弟仲が良いほうだと思いますが、やっぱりケンカをしてしまうことがあります。ですが、アメリカに行ってる間にケンカをしている兄弟を見かけることがなかったし、自分も見習いたいと思いました。これらの事を生かしてお手伝いを積極的に進んでやったり、兄弟仲良くしたいと思いました。

二つ目は、学校です。私はシャドーイングなどを通して思ったことが、授業が活発であるということです。日本は黒板に書かれたことをノートに写して、先生の話聞いて…などと静かな場面が多いですが、アメリカの授業は発言がとても多かったり、話し合ったりする場面では、全員が自分の思ったことをしっかりと話したりしていて、授業を受けている中でつまらないと感じたことがありませんでした。英語だったため、何を話していて、

みんなが何で笑っていたかなどは分からない部分もあったので、英語がわかればもっと楽しいだろうなと感じました。タブレット学習などもあっておもしろかったです。日本もこのような活発な授業になればいいなと感じました。

今の私の目標は、もう一度アーリントンに行く事です。自分の英語力が足りず何を言っているのかわからない部分もたくさんあったし、ホストファミリーなどにもたくさん迷惑をかけたと思うので、リベンジも込めて行きたいです。今回の訪問では本当にたくさんのことを学ぶことができ、とてもいい経験になりました。もっと英語を学びたい！！もっといろいろな国に行ってみたい！！など、より英語や海外についての興味が湧きました。このようなたくさんのいい経験ができ、本当に良かったです。ありがとうございました。

長岡第三中学校 3年 渡邊 こころ

アーリントンでのホームステイを終えて一番印象に残った出来事は、オトソン中学校での授業体験です。まず朝食が出ることに驚きました。授業は生徒が先生の部屋に行って行われました。先生は、教室を好きなように飾り付けていて楽しかったです。数学の問題の解き方が違うことを発見しました。日本のように公式を習わず、一問に五分もかけて解いていました。でも、テストで公式を忘れて解けないということはないだろうと思いました。

次に印象に残ったことは、時間に対する感覚の違いです。それはパーティーの日の事です。会場まで二十分かかるので、三十分前になってそろそろ行こうと言いました。まだ大丈夫と言われて、結局十分遅れて到着しました。でも、みんなもっと遅れてきたので、パーティーには遅れて来るのがアメリカでは当たり前なのかなと思いました。

そして、一番大変だった事が食生活です。朝食はシリアルがメインでした。全然口に合いませんでしたが、思い切ってお願いしてみると、卵やパンケーキを作ってもらえました。ホストマザーは嫌な顔をしないで受け止めてくれて、本当に嬉しかったです。その日から、お弁当を作る時にも、何が食べたいかを聞いてくれました。私を我が子扱いしてくれていると思うと、自分の思いを丁寧に伝えてよかったと思いました。

最後にアメリカ人の素晴らしい所は、意見も聞かれる前に自分からいう所と、失敗してもすぐ前向きに考えるところです。このような点を学んで、これから自分を変えていくように頑張ります。

個人の力を発揮するために自己主張をするアメリカの良さ、集団の力を高めるために仲間を大切にする日本の良さ、どちらもそれぞれにとっても良い特徴があると実感できました。

長岡第三中学校 3年 伊藤 しずく

アーリントンで過ごした十日間は、私の中で忘れることのない思い出となり、たくさんのことを学び、たくさんの文化を感じることができました。

私が今回のアーリントン留学で成長したことは、「自分の思いを伝えようとする」ことです。私がアーリントンに行くまでは、周りに合わせたりして「自分と考えが違っても合わせないといけない」とずっと思っていました。でもホストファミリーをはじめ、向こうの人達は自分の言いたいことをはっきり言って、それを聞いた人も受け止めてくれていました。それを見て私は「全部合わせたりしなくても良いんだ」と感じました。この十日間で私の中の視野が本当にとっても広がりました。人の目を全然気にしないで、やりたいことに何でも挑戦する姿を見て、私もこんな風になりたいなと思いました。優しくてフレンドリーで、一緒に過ごした時間は、言葉に表すのが難しいくらい幸せでした。

私が一番うれしかったことはホストファミリーと出会えたことです。初めて会って話したときは、スピードが速くて聞き取れなかったのが不安になったけど、ホストマザーのアンは、とても私に気をつかってくれて、簡単な単語で話してくれたり、ゆっくり言ってくれたりして、私が少しでも理解できるようにしてくれました。そして私を本当の家族のように接してくれて、帰ってきたら「今日は何したの？楽しかった？」と聞いてくれました。そしてたくさん写真を撮ったり、おいしい食べ物を食べたり、トランプやカードゲームをしたり、本当に楽しい時間でした。

バスの中ではみんなで歌を歌ったり、昨日のことを話したりしました。本当に十日間毎日が楽しくてあっという間に十日が過ぎました。フェアウェルパーティーでは仲良くなったみんなやホストファミリーとのお別れを感じてしまい、急に涙があふれてきました。

最後に、この留学は私を大きく大きく成長させてくれました。それは14期のみんな、学習会に関わって下さった先生方、応援してくれた友達や家族、学校の先生方、たくさんの人の支えがあり、私は成長することができて、変わることができました。そして、中学生のリーダーができて本当に幸せです。

このメンバーで行けてよかった。みんなと出会えて本当に良かった。ありがとうございました。

長岡第三中学校 3年 岡本 直也

僕がアーリントンに行って特に印象に残っている三つの出来事から、学んだ事を書きます。

一つ目の出来事は、アメリカに着いた時のことで、一番最初に目についたのは、空港で、サッカーボールを蹴って遊んでいる子でした。日本では、ありえないと思い、びっくりしていました。

二つ目の出来事は、ホストファミリーがとても親切だったことです。僕は、ちゃんと話せるかなと、とても心配していましたが、ホストファミリー全員が優しく迎えてくれました。それに、ビショップ小学校でバスケットをしている子達に、勇気を出して、「Can I play basketball with you?」と言ってみると、ためらわずに OK! と言ってくれ、優しいなと思いました。アメリカ人の優しさについて知れた出来事でした。

三つ目の出来事は、ホストファミリーとの会話で、文法がわからなかったのですが、自分の知っている単語を並べて何とか文を作ってみると、伝わったことです。行く前までは「作れるまで、話さんとこ」とか、自信のある文だけしか言いませんでしたが、伝わってからは、変な文であっても伝えること、伝えようとする気持ちが大切なんだ、ということを知り、これからは、もしわからなくても伝えていきたいなと思いました。

僕は、この三つ以外にも、もっと面白く、楽しい経験がありました。日本では考えられないことが普通に起こっているアメリカ、今まで知ることのなかったアメリカ人の優しさ、分からなくても、やってみようとするものの大切さ、普段の生活だけでは得ることのできないことを学ぶ貴重な体験となりました。今度は日本人の僕が、アメリカ人に、日本人も優しく、日本もきれいだよ！って教えてあげたいと思いました。

長岡第四中学校 3年 大幸 香央子

私は今回の留学で初めてアメリカに行って、おどろくことがたくさんありました。例えばレジの人が急に話しかけてきて日本語であいさつしてくれたり、アーリントン高校で授業を受けた時に、自分が人に借りてまで教科書を貸してくれたり、アメリカの人はとても明るく優しいなと感じました。特におどろいたことは、街で大学生くらいの人達に「写真とりませんか？」ときいたときに、すぐに「もちろん！」と答えてくれて、全然知らない自分たちと楽しそうに写真をとってくれたことです。それから、街中にゴミ箱がたくさんあって、犬のフン用のゴミ箱があってとてもビックリしました。日本では、絶対ないようなことがたくさんあって毎日おどろいたり歌ったりしてとても楽しかったです。

ホームステイしている時に、曲がずっと流れてたりして、その中に自分が知ってる曲とかあった時に、そのことでまた会話が増えたり、その曲をいっぱいかけてくれたりしたので、洋楽をいっぱい聞いてよかったな～って思いました。十日間は短すぎて、もっとしたいことや話したいことがあったけどとても充実した十日間でした。今度また行きたいってとても思ったし、アメリカがとっても好きになりました。今度は、私たちがホストファミリーになって迎える番なので、アーリントンの生徒にも、同じように日本を好きになってまた来たいと思ってほしいなと思いました。なので今回の経験を生かして、自分がしてもらってうれしかったこととか一緒にできてよかったこととかをしたいと思います。

長岡第四中学校 3年 竹下 明佑美

私はアーリントン訪問に行って学んだことがたくさんあります。その中でも私は「コミュニケーション力」と「笑顔」が大切だと思いました。なぜなら「コミュニケーション力」を持っていると、自分から進んで英語を話せ、相手に想いを伝えられるからです。そして、もう一つの「笑顔」は、楽しく話していると、聞いている方も楽しいし、みんなが笑顔に

なるからです。

私がアーリントンに行きたいという目的は、もっと世界を知りたいから、というのはもちろんですが、一番は私はすごく英語が好きなので、英語で外国人と関わりたいと思ったからです。私は以前、グアムに行ったことがあったのですが、ほぼ英語を話すことなく過ごしていました。もし、次に外国に行く事があれば、積極的に英語を話し、話しかけてくれた外国人の方に、しっかり返事をして、思いを伝えあいたいと思っていました。今回アーリントンに行き、次はもっと英語を話したいと欲ばりになりました。多分この先何回外国に行っても、次へ次へと目標、やりたい事がでてきて、悔いはあると思います。でも、その悔いを一つ一つなくして、ずっと成長していけたらいいなと思いました。

アーリントンには、たくさんの歴史があって、すごく興味深いものでした。特に、アーリントン国立墓地では、アメリカに尽くした人物・アメリカ合衆国という国家を形作った方々が眠っていました。植民地からの独立のため、自分たちの自由と平等のために戦った人々に尊敬しました。

アーリントンは本当に楽しくて、行って良かったと思え、色々学べたので、ぜひこれから訪問団になりたいと思っている人や、少しでも興味のある人の背中を押してあげたいです。

私はアーリントン訪問に行く前、不安や心配ばかりでした。でも行ってみるといつの間にかその不安は消え、困ったことなどがあっても、それ以上の楽しさで吹き飛ばされました。この楽しさは、アーリントン訪問を受け入れてくれた、自分のすごく優しいホストファミリー、他の家庭のホストファミリー、アーリントン訪問に関わって下さった先生方などが自分を支えて下さったおかげだと思っています。そして、一番はアーリントンに行かせてくれた、自分の家族だと思っています。本当に感謝しています。

アーリントンに行って、私が改めて思ったのは、勉強は「学ばないといけない」ではなく、「学びたい」と思う事が大切だなと思いました。

アーリントンで学んだ事を、これからの生活に生かしていけるように頑張っていきたいです。

長岡第四中学校 3年 岡嶋 大地

僕はアーリントンに行っていていろいろなことを学びました。

一つ目は優しさです。僕はホームステイのリーダーの家に着くまではとても不安とドキドキがありました。ホームステイ先と仲良くできるかなとかご飯が口に合わなかったり、朝起きれなかったりしたらどうしよう、などといろんな思いがありました。しかし、ホストファミリーの母親や子供はそれをすべて打ち消すかのように優しく接してくれました。それは、わざと優しくしているのではない自然の優しさでした。日ごろから人に優しくないとできないことだと思っています。そういう所から日本とアメリカは優しさが違うと感じました。日本は他国から見ると親切かもしれませんが、しかし一人一人が優しいとは限りませ

ん。しかしアメリカは一人一人が優しいから国が親切なのです。外見は一緒でも中身は全然違います。僕もしっかりホストファミリーを見習って優しさを磨いていきたいと思います。

二つ目は友情です。初めの方はホームステイ先でなかなかしゃべれずに、さびしい気持ちでした。しかしそれを支えてくれたのがアーリントンメンバーです。アーリントンメンバーは信頼しているので、家族のように話すことができます。そのおかげで、家で英語だけで疲れていても、アーリントンメンバーとしゃべることによってとても癒されました。そう思うと人は友達がいないと生きられないのだなと思いました。そして今回アーリントンに行ったことで仲良くなれた人がいます。それは高校生のメンバーと現地の学生です。十日間一緒に行動することによって高校生との先輩、後輩という関係がなくなったような感じがしました。そしてアーリントンで中学校に行ったとき、シャドーイングをした僕のペアとその友達ととても仲良くできました。十日間で友情に支えられ、新しい友情に出会えたことにとても感謝しています。

今回の体験で学んだ事をしっかりと次の世代に伝えていきたいと思います。

長岡第四中学校 3年 千崎 優花

私はアーリントンに行っていていろいろなことを吸収することができました。行く前までは、自分は英語が得意なほうだと思っていたけど、向こうに行くと全然通じませんでした。でもジェスチャーなどを使って「伝えよう」としたら伝えることができました。そこから、大切なのは文法通り正しく言おうとすることではなく、伝えようとする気持ちなんだなと思いました。

アーリントンで学校訪問をした時に感じたことは、一人一人がしっかりと意見を持っている、ということです。そして授業中、先生が話している途中でも、自分の思ったことがあれば、すぐに手を挙げて発言していて驚きました。それに友達が言った意見に対して「私はこう思うな。」ということや、「それいいね」ということを正直に伝えられる雰囲気みたいなものがありました。

あと、アメリカの人はすごくオープンだなと思いました。ろう下ですれ違っても「Hello!」とすぐに言ってくれて、そういう所がいいなと思ったし、そういう人になりたいなと思いました。

この十日間のアメリカでの生活は私にとって、貴重なものになりました。楽しいことばかりではなかったけれど、自分自身を成長させることができました。また、アメリカの文化を学ぶことで日本の文化についても、もっと知りたいなと思うこともできました。私がアーリントンに行くことができたのは家族や、先生方、14期メンバーなどいろいろな人の支えがあったからなので、感謝の気持ちを忘れないようにしたいです。

私は、アーリントン訪問を通して感じたことが2つあります。

一つ目はアメリカ人の優しさです。私はアーリントン訪問中、けがが悪化してしまって上手く歩けなかったり、車いすにのったりしていました。その時知らない人も「Are you all right?」(大丈夫ですか?)と声をかけてくれて、すごく自分のはげみになりました。時には荷物を持ってくれたり、手をかしてくれたりして、アメリカ人の優しさに感動しました。助けたりする人はすごく少ないけど、アメリカ人はみんなが心配してくれたり、助けてくれるので、心の暖かさをすごく感じられました。自分は全然優しくない人なんだなと思ってしまうような瞬間でした。

2つ目はジェスチャーの大事さです。ホストファミリーや中学生、高校生の人たちに伝えたいことが上手く伝わらなかった時、一生懸命ジェスチャーをしたらすぐ分かってくれて、すごく達成感がありました。伝わらない時に限らず、アメリカ人は常にジェスチャーを使っていてすごく分かりやすかったし、一緒に話すことがすごく楽しかったです。私は日本の人たちがもっとジェスチャーを使えば、会話がはずむのではないかなと思いました。会話がはずめば仲良くなりたい人ともっと仲良くなれると思うので、私達は今、すごくもったいないことをしているのかなと感じました。私は最初このアーリントン訪問が正直不安でした。でもそんな不安は一気に消えました。すごく不思議な感覚でした。これも貴重な経験だなと思いました。

最後に、半年間ともに歩んできた14期メンバー、色んなことを教えてくださった先生方、今回の挑戦を支えてくれた家族にすごく感謝しています。今回の経験を必ず将来に生かしていきます。本当にありがとうございました。

僕は中学校の頃は英語を喋ることに抵抗がありました。ですが、今は英語を学ぶことも話すことも大好きです。それは英語を学ぶ楽しさに気づいたからです。毎週水曜日に短期留学に向けて、学習会をしていただきました。そこでは、現地で使える英語やコミュニケーションの取り方について教えてくださいました。学習会を重ねていく事で、だんだん自分に自信が持てるようになって、英語を話すことの楽しさ、大切さに気付きました。

アメリカに向かっている飛行機の中では、不安と楽しみで心がいっぱいでした。アメリカに着いてホストファミリーのみなさんと会うと、とても優しく嬉しかったです。ですが、一日目は緊張してあまりうまく話すことができませんでした。それは「英語が伝わらなかったらどうしよう」などと考えてしまっていたからです。ですが、二日目からは一日目で味わった悔しい思いはしたくないと思い、自分から積極的に会話をしました。そこで感じたことは、自分から積極的にいろいろなことをすることの大切さです。もし相手に自分の伝えたいことがあったとしても、様々な方法で伝えることで、必ず最後まで聞いてく

れるので、とても嬉しかったです。

短期留学を通して、たくさんの方々と出会う中で、考えたことがありました。それはコミュニケーションをとることの大切さと人との出会いについて考えました。それを感じたのはアーリントン高校の授業に参加した時です。短い授業でしたが、授業が終わった時に「楽しんで！」や「また来てね！」などと声をかけて下さったことがとても嬉しかったです。この経験から、一人一人との出会いを大切にしたいと思いました。

短期留学で学んだ一つ一つのことを大切に、これからの生活に生かしていきます。

西乙訓高校 2年 上地 珠央

私は今回このアーリントン短期留学に参加することができて、本当に良かったと思っています。なぜなら、私はもともとこの試験を受けた時、受かっても受からなくてもいいやと思っていたからです。家庭の事情なども考えて、前向きな気持ちではありませんでした。それに、私の性格も、知っている人とは話せるけれど、とても人見知りなので、アメリカでホームステイだなんて、自分には絶対無理だと思っていました。でも、学習会へ参加して、中学生の熱意や支えて下さってる先生たちを見て、こんな中途半端な気持ちでは、出来ないし、絶対後悔すると思い、本気で取り組むようにしました。プレゼンは英語で長岡京市の歴史を伝えるというもので、本当にうまくいくのか、高校生私一人で大丈夫かととても不安でした。パワーポイントが使えなくて、フリップ形式に変えた時も、真剣に取り組んで丁寧なものに仕上げてくれた中学生には、とても感謝でいっぱいです。向こうについてホストファミリーと会う前、どんな会話をしてどんなふうに接すればいいのか、すごく怖くて不安でした。でも、ホストファミリーたちはとても優しく、私の話を聞いてくれたり私たちの生活に興味を持ってくれていたのも、すごく嬉しかったです。はじめは、一言ずつでしか話せなかったり、焦ってしまい、文法や単語を間違っとなかなか伝わらなかったことも多くすごく臆病になってしまっていました。でも過ごしていくうちにどんどん話せるようになっていきました。日本について、私について、私の将来の夢についてまで言うと、応援してくれました。ホストシスターも教えてくれたので、これからも連絡を取り、出会いを大切にしたいと思います。自分の今までの性格からは想像できないほど、自分から話そうとするようになっていて驚きました。とても良い経験になりました。秋にオーストラリアでホームステイがあるので、今回よりもたくさん交流してみたいです。

西乙訓高校 2年 完山 花

私は今回、短期留学をし、たくさんのことを学んで日本へ帰ってきました。街並みや食

文化、その地域でのマナーなど、日本とは大きく異なることは予想していましたが、それ以上に異文化を体感することができました。その中でも私がより感心し、自分が持っていた考え方を見直すきっかけとなったことが二つあります。

まず一つ目は、コミュニケーションで最も大切なことは積極性である、と感じたことです。アーリントン高校の授業を体験していた時、私は積極的に行動することを心掛けていたので、アーリントン高校の生徒へ話しかけていました。私の未完成な英語をしっかりと聞き取ろうとしてくれる人が大半でした。しかし中には「日本語分からないから」と私と距離を置いた生徒もいました。「カタコトでも会話したい」という私の気持ちが伝わっていないのだと、少しショックでした。しかし、私は諦めず、しつこくない程度に何度も話しかけました。すると、授業の終盤でしたが、心を開いてくれたのか、私に話しかけてくれたのです。もしこの時、積極的でなかったら、その生徒とは全く会話をしていなかったのだろうと積極的である大切さを実感しました。

二つ目は、「他人は他人」という考え方です。この考え方はすべての人とは限りませんが、日本にもあります。しかしそれは、「自分と違うから変だ」という考えなのでは、と私は捉えています。しかし、アメリカに住む人の考え方としては「自分と違って当たり前、個性がある」と日本と比べて他人を褒めるようなものだと私は捉えました。

この二つのことを学び、私はこれからも積極的に行動していこうと改めて思いました。また、自分と違って当たりの他人に対して「変だ」と思うのは少し格好悪いのでは、と感じたので、考え方を見直したいです。

西乙訓高校 2年 津村 美侑

初めての海外という期待と、自分の言いたいことが伝わるか、英語が聞き取れるかという不安を抱え出発しました。一日目は緊張のせいか、伝えたいことが英語で言えず、聞かれたことに対して Yes か No で答えていたけれど、だんだん慣れてきて自分から話題を振ったり、今話している内容についてもっと話し込んだりと英語で会話する楽しさについて感じる事ができました。ホストファミリーは私の伝わらなかったことに対して「この事？」などとヒントを出してくださったり、「単語で教えて」など必死に理解しようとしてくれたこと、私が理解できなかったことには簡単な文にしてくれたり、私にわかるまで教えてくださったことなど、たくさんの温かさを感じました。

そして、一番驚いたことは日本人にない積極性です。ホストファミリーの友達、街中や学校ですれ違う人から声をかけてくれること、さらにお店のレジの人からも「What's up?」と聞いてきたことです。また、アメリカの授業では絶えることなく手を挙げ意見を述べたり、面白いことを言ったり、日本での黒板をノートやプリントに写すという様子はあまり見られず違いを感じました。授業中でも飲食は当然で、忘れ物を取りに行ったり携帯を触ったり、とても自由でいいなと思いました。昼休みのカフェテリアは何事と思うぐらい混雑していて日本のようにゆっくり食べると間に合わないほど短く、間休みも学校が

大きいため走って移動しないと間に合わないなど、日本では考えられないことがたくさんで驚きの連続でした。

この十日間でたくさんのことを学びました。中でも積極性が一番生かせることだと思うので授業や日々の生活で生かしていきたいと思いました。そして、次回海外に行くときは今回よりもうまく喋りたいと思うので自分の未熟な英語力を伸ばしたいなと思いました。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

西乙訓高校 2年 宮城 楓

私がアーリントン短期留学で気づいたことは、外国人とコミュニケーションをとる上で一番重要なのは、正しい英語を使うことよりも、積極的に話し、伝えることだということです。

私は今回の留学に行くまでは、英語で話す機会があっても、「間違っていたらどうしよう。」という迷いが生じて、英語を話すことに消極的だったように思います。しかし、留学に行ってからその迷いは消え、堂々と英語を話せるようになりました。それは、ホストファミリーや現地の方々と過ごすうちに、英語が通じた嬉しさを感じたり、ボディーラングージを使って会話がスムーズに進んだことで自信がついたからです。私の下手な英語でも理解しようとしてくれたり、本当の家族のように接してもらえたりして、本当に嬉しかったです。これらの経験から、英語はコミュニケーションをとる上での一種の「ツール」でしかなく、この「ツール」をどんな目的でどう使うかは自分次第なんだと気づかされました。

また、ホストファミリーが私の「いただきます」などの言葉や仕草を真似てくれたり、日本の物を教えたり、異文化交流もできました。アメリカの学校では、日本と比べて自由に驚いたり、様々なところで異文化を感じ、とても貴重な体験をしました。

私はアーリントンを訪問してみて、今までよりも視野が広まったと思います。アメリカの生徒たちの自ら学ぶ姿勢を目にしたことが刺激になり、今、自分が学ぶことの意味を考えさせられました。また、英語を使いこなすことができなかった悔しさが残っているので、次は英語を完璧に使いこなせるようになってアーリントンに自分の力で戻りたいです。将来英語という「ツール」をどのように使うかはまだわかりませんが、今回の留学が将来を深く考えるきっかけになったことは間違いありません。

Letter From Arlington, Boston

長岡京市→伊丹空港→成田空港→ボストン→アーリントン→各ホームステイ先へ
 全員元気にボストン空港へ到着し、記念撮影！



① たくさんの方々に見送られ、いざ出発！

雨が心配されましたが、曇り空の中、中小路市長はじめ、校長先生、保護者の方々など、多くの関係者のみなさんに見送られて、生徒たちは全員元気にボストンへ向けて、長岡京市を出発しました。バスの中では、機内における注意事項を聞き、生徒たちも気持ちが引き締まったようです。伊丹空港へ到着直前に、全員で「Sweet Caroline」を合唱しました。

② 伊丹空港から成田空港を経由して…いよいよボストンへ！

空港では、手荷物検査、セキュリティーチェック、出国審査など、さまざまな手続きを全員が見事に(?)クリアして、皆一安心でした。初めて飛行機に乗る生徒はさぞかし緊張したことでしょう。機内でもみな騒いだりすることなく、しっかりとマナーを守っていました。



伊丹空港でハイポーズ！



伊丹空港にて



機内でピース！



成田空港にて

③ ついにボストン到着！

入国審査では指紋及び、顔認証システムを皆が経験しました。生徒の顔にも緊張が走っていましたが、ここも無事クリアしました。審査後は「日本語をしゃべってくれた！」、「滞在先を聞かれた」、「滞在目的を聞かれた。」等、皆で盛り上がり、微笑ましい光景でした。

ボストンはあいにくの雨でしたが、そんなことは全く感じさせない、生徒たちの高揚した気持ちがこちらにも伝わってきました。コーディネーターのジョアンさんとその息子さんの出迎えがあり、全員で記念撮影した後に、バスに乗り込みホームステイ先の方々が待つ、ジョアンさんの家に向かいました。バスの中は長旅の疲れも全く感じさせないぐらいに、生徒たちは笑顔、笑顔で歓声があふれていました。日本ではあまり見られない、イエローのスクールバスにも生徒たちは興味津々でした。



スクールバス乗車へ



笑顔、笑顔のバス車内

④ 待ちに待ったホストファミリーとの対面！

ジョアンさんの家には、多くのホストファミリーの方々が待っておられました。緊張した生徒の顔が、ホストファミリーの暖かい歓迎で一気に吹き飛び、各自はホストファミリーに連れられて各家庭に帰っていきました。ここからは、生徒の力だけで英語を話していかなければならないので、とてもいい経験になることは間違いないでしょう！



Letter From Arlington, Boston

ウィルソンファーム→フェンウェイパーク→州議事堂→クインシーマーケット

州議事堂でマサチューセッツ州の下院議員と記念撮影



① アーリントン高校前に集合して出発！

初めてホストファミリーと一日を共にして、皆元気にアーリントン高校前に集合しました。ホストファミリーのフレンドリーな対応に皆すぐに打ち解けたようで、朝から笑顔が絶えませんでした。今にも雨が降りだしそうな中、ウィルソンファームへとスクールバスで出かけました。



朝、皆で集合！



バスでウィルソンファームへ

② ウィルソンファームツアー

バスを降りた瞬間に、ファームの大きさに皆“アメリカ”を実感！最初にこのファームでとれたリンゴを丸ごとその場で食べました。日本では歩きながらリンゴを食べる習慣はあまりないため、少しためらいがちでしたが、「ここはアメリカだ。」とすぐにリンゴにかじりついていました。多くの美しい花や新鮮な野菜などなど、現地の方の説明を熱心に聞き入っていました。“アメリカ”を感じたツアーでした。



熱心に説明を聞く生徒たち



リンゴを食べながら…



パンの大きさに圧倒！

③ フェンウェイパークの見学

大リーグレッドソックスのホーム球場である、フェンウェイパークを見学しました。球場内に入ったとき、緑を基調としたその鮮やかさに、感動すら覚えました。外野にそびえ立つ“グリーンモンスター”の上にある席にも案内してもらい、全員座って記念写真を撮りました。5／1の野球観戦が楽しみです！



球場前で他の観光客とハイチーズ！



内野席を独占！？



グリーンモンスターの特等席に着席！



球場内で

④ マサチューセッツ州議事堂へ

金色の玉ねぎの形をしたドームがシンボルの州議事堂を見学。ガイドさんからのさまざまな説明を聞いている最中に、思いがけずジョーン・ガーバーリーマサチューセッツ州下院議員が登場され、生徒の「なぜアーリントンにはマクドナルドがないのか？」との質問にも、丁寧に答えていただき、最後に皆で一緒に記念撮影を行いました。



州議事堂内で



州議事堂の前で

⑤ アーリントン高校前へ到着

州議事堂見学後に、フリーダムトレイル（約4キロ）を行う予定でしたが、今日は一日中ノンストップのプログラムであったため生徒にも疲れが見えていたので、クインシーマーケットでのショッピングに変更しました。そしてショッピング終了後にバスでアーリントンまで戻りましたが、さすがの“エネルギーッシュ”な生徒たちも多くが寝て（爆睡？）いました。アーリントン高校前に到着後は、迎えに来られていたホストファミリーの方と一緒に各家庭に戻って行きました。バスを降りて出会った途端にハグをする光景も多く見られ、アメリカの文化に馴染んでいる光景は微笑ましく感じられました。生徒たちも一挙に疲れがとれて、皆笑顔で帰っていく姿を見てほっとしました。



帰着後、疲れた中にも笑顔が満開！

☆本日撮った写真の中から抜粋して掲載します☆





Letter From Arlington, Boston

アーリントン高校→オトソン中学

アーリントン高校で踊りと歌と英語プレゼンを披露！



第3日目はアーリントン高校の交流と、オトソン中学での演劇鑑賞という2本立てのみでしたが、とても内容の濃い交流になりました。

① アーリントン高校での交流

朝の集合先であるアーリントン高校前に生徒たちが集まってきましたが、どこことなく不安げな顔も見られました。やはり初めて歌と踊りを披露する緊張感からきていたのだと思います。

[1] 朝食にパンケーキを食べて、校内見学へ

アーリントン高校の生徒が作ってくれたパンケーキを皆で食べましたが、すごい量のため、かなり残ってしまいました…。朝食後は、班別にアーリントン高校の生徒たちが校内をツアーしてくれました。



手作りのパンケーキ



興味津々の校内ツアー



ツアー中にハイポーズ！



ここでもハイポーズ！

〔 2 〕 現地で初めてのパフォーマンスを披露！

大ホールに集まってきたアーリントン高校の生徒たちの前で、こちらに来て初めての歌と踊りを披露。スポットライトのあたる舞台の上にあがった生徒たちは、思っていた以上に落ち着いており、練習を重ねてきた「ふるさと」と「Believe」を熱唱し、「よさこいソーラン」を精一杯踊りました。全てを出し切って歌い踊った日本の生徒たちに、会場からも割れんばかりの拍手が！生徒たちの顔もほころび、満足感にあふれていました。また、合間にアーリントン高校の生徒有志によるユニークなパフォーマンスも披露していただきました。日本の集団パワーvs アメリカの個人パワーという文化的側面が強く感じられる両校の出し物で、とても意義深い時間となりました。





「ふるさと」と「Believe」を熱唱！



独唱シーンも！



現地学生のパフォーマンス





「よさこいソーランの披露」

〔 3 〕 京都プレゼンテーション

今年から始まった京都をトピックにした英語によるプレゼンテーションを披露しました。パワーポイントや画用紙を使っての手作りの説明もばっちり、英語も皆堂々と大きな声で発表しており、これまでの練習の成果がいかに発揮されていたように思えます。高校生と中学生の息もぴったりでとてもスムーズな発表は素晴らしかったです！！



指し棒を使って説明



息もぴったり！

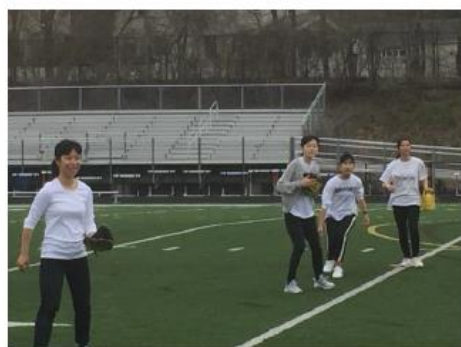


タイミングもばっちり！

〔 4 〕 体育の授業に参加

大ホールでのパフォーマンスを終えた熱気が残る中、生徒たちは体育の授業に参加。クライミングの授業が予定されてましたが、天候不良のため、ソフトボールに変更されました。アーリン

トン高校の先生が投げるボールを皆精一杯打ち返していました。空振りをしても見ている皆が声をかけるなど、パフォーマンスの満足感からか、本当に明るくてにぎやかなソフトボールの体験になりました。



〔 5 〕 ランチタイム

アーリントン高校内にあるカフェテリアで昼食をとりました。パフォーマンスとソフトボールによる空腹を満たすため、皆たくさん食べていました。野菜の種類の多さに驚く生徒もあり、ランチも“アメリカ”を感じる一コマになりました。



〔 6 〕 英語の授業に参加

5 班にわかれて英語の授業に参加しました。教室に入る時にはとても緊張していましたが、和やかに進められる授業に、笑顔がこぼれる生徒もたくさんいました。“参加型”の授業に異文化を感じた生徒も多かったことでしょう。



② オトソン中学での演劇鑑賞

オトソン中学生による、「Bye Bye Birdie」の劇を鑑賞しました。昨年同様、中学生とは思えぬ劇の完成度の高さに驚かされましたが、休憩中に「すごい劇なのに自然と睡魔がおそってくる…」と生徒たちがいついていたくらい、疲れがピーク&暗闇での鑑賞は、睡魔との戦いでもありました。ハードな一日ではありましたが、パフォーマンスとプレゼンテーションをやり切った自信は、今後の人生においても必ず生きてくるでしょう。

Letter From Arlington, Boston

ボストンコモン
ジャパンフェスティバルにて



第5日目は、ボストンコモンで行われたジャパンフェスタにて、歌と踊りを披露しました。例年は1度だけのパフォーマンスですが、今年は午前と午後に2度のパフォーマンスを披露しました。

① あいにくの雨模様

朝、アーリントン高校前に集合した時には、あいにくの雨模様でした。屋根付きのステージで踊るため、雨がふっても行われるのですが、できればよいコンディションで行いたい、との気持ちは皆がもっており、空を見上げては心配そうな表情の生徒も多く見られました。「天気はもつだろうか…」との思いをいだいてバスに乗り込み、ボストンコモンに向かいました。

② ボストンコモンに到着

パフォーマンスが行われるボストンコモンは、町のど真ん中に広がる緑のオアシスで、私たちが到着した時には、すでに人が大勢集まってきており、いたるところに食べ物を中心としたブースが並んでいました。生徒たちが思わず目を向けてしまったのは、多くの人のコスプレです。アニメキャラクターやサムライに扮したコスプレが、あちらこちらに見られました。

③ ステージでの第1回目のパフォーマンス披露

11時40分から行われた第1回目のステージの前には、子供たちが衣装に身を包んでダンスをしていました。次はいよいよ我々の出番。ステージ横で待つ生徒たちは心持ち緊張はしていたようですが、とてもリラックスしており、何か自信にあふれているようにも見えました。また天候は小雨でしたが、ほとんど気にならないほどでした。

歌「Believe」「ふるさと」に続き、「よさこいソーラン」を踊りました。先日のアーリントン高校でのパフォーマンスもすばらしかったのですが、今回のパフォーマンスはさらに磨きがかかったすばらしいものになりました。

特に、歌っているときも踊っている時も笑顔が絶えず、声もしっかりと出ており、本当に自信にあふれた素晴らしいパフォーマンスだったと思います。その迫力は観客を魅了したこと間違いありません！！



出番を待つ生徒たち



歌を熱唱！



ふるさと 2 番は独唱



踊りの説明の後、いよいよ本番！



③ ステージでの第2回目のパフォーマンス披露

第2回目のステージは午後2時から行われました。このころには雨もやみ、日差しも見えていました。また観客も午前よりも増え、ホストファミリーの方々も多く見受けられました。ステージに上がるだけで、観客から黄色い声援が！そして、パフォーマンスが終わると、割れんばかりの拍手が起こり、それはしばし止むことはありませんでした。アーリントン高校の時よりも、本日の第1回目、本日の第1回目よりも第2回目、回数が増すにつれて、ますますパフォーマンスの出来がよくなっていました。生徒たちの底知れぬ可能性を感じたのは、私ひとりだけではないと思います。まだこれから3回ものパフォーマンスの披露があります。生徒たちの成長を考えるだけでワクワクしてしまいます！

Letter From Arlington, Boston

オトソン中学→ケーブルテレビ→イーグルスデリー→タウンミーティング

オトソン中学の学生と記念撮影



① オトソン中学のカフェテリアで朝食

校内のカフェテリアでマフィン、スナック菓子、ヨーグルトなどが用意されており、それらを生徒たちはいただきました。



② 京都プレゼンテーション

アーリントン高校に引き続き、京都プレゼンテーションを披露しました。予定になかった急なプレゼンだったのですが、やはり一度やっていたので、前回同様とてもスムーズに進めることができました。社会にでると常に予定どおりにいくとは限らないので、こういった機会も一つの経験として役立つのだと思います。でも生徒たちの落ち着いた発表態度は見事だったと思います。



③ パフォーマンスとプレゼント

生徒たちは歌と踊りを披露。歌も踊りもすばらしかったのですが、特にレッドソックスの応援歌である「Sweet Caroline」は、オトソン中学生もノリノリで、とても盛りあがりました。また、オトソン中学生の代表がバイオリンやチェロなどを使った曲を演奏してくれました。パフォーマンス終了後には、生徒と今日一日を共にするバディの紹介が。また、生徒一人ひとりにプレゼントが手渡されました。



各校でのパフォーマンス



一日お世話になるバディと

④ 現地の学生とシャドーイング

オトソン中学生とペアを組んで、一日授業を体験しました。英語、地理、数学、音楽、体育などに参加しましたが、後で感想を聞くと「生徒がすぐに手をあげて意見を述べていた。」「パソコンを使った授業が新鮮だった。」「All English は難しかったが、いい経験になった。」「生徒がとてもリラックスして授業を受けていた。」等々、日本の授業との違いに驚く声が多く聞かれました。授業の理解度よりも、異文化を身で感じたことに大きな意義があると感じました。昼食は皆和やかにオトソン中学の生徒と食べていました。



バディと授業体験



皆でハイポーズ！

⑤ アーリントンケーブルテレビ局を訪問

TV ショーの撮影を行っているスタジオの見学を行いました。ただ見るだけでなく、実際にアナウンサーやカメラマン、音声係などを体験させていただきました。プロが使う本格的な機材を実際に触って使うため、そのリアル感が強く、生徒たちは興味津々で操作をしていました。



アナウンサー者役で登場



出演者役



音声係



本格的なカメラマン



⑥ 夕食は現地で有名なバーガー店で！

今日も内容の濃い一日を過ごし、空腹の状態です「イーグルスデリ」のバーガーショップで夕食をとりました。現地ではとても有名で、味にも定評がある店です。何と12個のハンバーグが串刺しになってでてきました！これぞアメリカ！！一つのハンバーガーもかなり大きく、食べれるだろうか？との心配もありましたが、多くの生徒が完食していました。味も最高で満足の夕食になったのではないかと思います。



巨大バーガーにびっくり！

⑦ タウンミーティングへ

本日最後のタウンミーティングへ参加しました。夕食後にバスで移動したのですが、バスの中で生徒たちは「Believe」や自分たちの学校の校歌を大合唱。皆疲れてへとへとかと思いきや、全くその逆で、超元気な姿に圧倒されてしまいました。「すごい…」の一言です。最後に向かったタウンミーティングでは、実際に予算と条例を決める議会を見学しました。友好都市の長岡京市から来た私たちを、全体場で紹介していただきました。また団長であるコナー先生があいさつをしました。



Letter From Arlington, Boston

ビショップ小学校→ハーバード大学→レッドソックス観戦

ビショップ小学校にて



① ビショップ小学校での交流

ビショップ小学校で大歓迎を受けました。まず体育館で、大勢の小学生に向かい入れられて入場。プレゼント交換のあと、ビショップ小学校から生徒一人ひとりに、ビショップ T-shirts と手作りのクッキーのプレゼントがありました。そして、小学生の出し物に続いて、生徒たちは歌と踊りを披露しました。踊りはとても珍しかったようで、小学生たちは興味津々で鑑賞していました。また、「Sweet Caroline」は小学生たちもノリノリで、とても盛り上がりました。



プレゼントに大喜び！



小学生の歌



生徒の出し物



音楽の先生と

ビショップ小学校でのメインのプログラムは「日本文化の交流体験」です。3つのクラスで「折り紙」、「けん玉」、「習字」の3つを体験してもらいました。日本で日本文化を教えるための事前学習は行っていましたが、小学生の理解度も各自まちまちであったため、その場で進め方を工夫しなければならなかったのですが、とてもスムーズに指示をしていました。プレゼンテーションと違って、実際に目の前に物があるので、ジェスチャーと英語で手取り足取り教えていく中で、小学生もお兄さん、お姉さんに頼る姿も多く見受けられました。



小学生に一生懸命日本文化を教える生徒たち

日本文化の交流体験終了後には、校庭にて、くつろぎのひと時をもつことができました。走り回る小学生とじゃれあったり、皆童心（？）に戻ることができたのではないのでしょうか？



ビショップの校庭にて

② ハーバード大学訪問

ハーバード大学を、散策を兼ねて見学しました。タイタニック号の沈没でなくなった学生の親が寄付して建てた美しい図書館や、シューズの先を触ると幸せになれるという「John Harvard Statue」などを見学しました。



③ レッドソックスの試合を観戦

皆が楽しみにしていたレッドソックスの野球観戦をしました。フェンウェイパークツアーは2日目に行っていましたが、観客が大勢入った球場は独特の雰囲気につつまれ、ライトが球場をより鮮やかにしていました。レッドソックスのキャップやパーカーなどを身に着けて応援する生徒もあり、試合開始前から熱気ムンムン。試合が始まると体を動かしたり、立ち上がって応援したり、興奮度もマックスに。試合も手に汗握るシーソーゲームに。延長戦でなかなか決着がつかない中、明日のことを考えて試合終了を待たずに席を立ちました。野球にそんなに興味がない子も興味がある子も全員で一丸となって応援できたのはすばらしかったです！



試合前にダースベータと！



Letter From Arlington, Boston

Whale Watching→水族館→フリーダムトレイル

Whale Watching場にて



① Whale Watchingへ

昨日のレッドソックス観戦の疲れが少し残る中、ボストンの港へクジラ観測に行きました。乗船後、約一時間でクジラが現れるスポットへ到着。クジラが出現すると、皆一斉にデッキへ！こんなに間近でクジラを見られる機会は多くないので、あちらこちらでシャッターを切ったり、動画に収めたりする姿がありました。帰りの船の中はさすがに疲れが溜まったのか、熟睡する生徒たち。でも陸に帰ってきた後、立ち寄った水族館では皆元気だったので、一安心しました。水族館ではエイに実際に触れてみたり、とてもキュートなペンギンを見学したりと、有意義なひと時を過ごしました。





② フリーダムトレイルへ

2日目に行けなかったフリーダムトレイルへ。フリーダムトレイルは、アメリカ独立に向けひた走った先人ゆかりの家や場所などの史跡を結んでいる赤いライン。コナー先生の説明を聞きながら、その赤いラインに沿って皆で歩きました。



Letter From Arlington, Boston

技術専門学校→ショッピングモール→フェアウェルパーティ

ミニットマン技術専門学校前にて



① ミニットマンでの交流

技術専門学校「ミニットマン」で交流を行いました。いよいよ最後のパフォーマンス。「これで最後！」との思いで、「ふるさと」と「Sweet Caroline」を熱唱し、「よさこいソーラン」を一生懸命踊りました。昨年よりもたくさんの数を歌い、踊った今年の生徒たち。歌い踊った後は本当に満足感にあふれていました。「本当によくやった！」…この言葉しかみつかりません。ミニットマンは専門的な実習だけでなく、アカデミックな学習にも力を入れている専門学校で、プログラミングの授業や美容の実習、クッキングの体験などを行うことができました。生徒たちはその専門性の高さにびっくり。またハート型のクッキーにクリームを塗る作業を実際に体験しました。

（もちろん完成品はいただきました！）体験授業のあとは、皆で来年完成予定の新たな校舎を見に行きました。“広大な”アメリカの土地に嫉妬心さえ沸きそうでした。最後に部屋に戻って、たくさんのお土産をいただきましたが、こんなにたくさんもらってもいいの？と思うぐらいの数でした。歓迎の高さがうかがわれるお土産でした。バスに乗り込む前に、アメリカと日本の旗を持って記念撮影を行いました。（上記写真）今回、ミニットマンは初めての交流でしたが、思い出に残る素晴らしい交流になったと思います。



新校舎建設予定地で記念撮影

② フェアウェルパーティに参加

ミニットマンでの交流後は、レキシントンでの歴史学習の予定でしたが、「もっとお土産を買いたい!」との声も多く、モールでのショッピングに変更。レキシントンは明日訪問することになりました。ショッピング終了後は、アーリントン高校に皆でバスでもどりました。そして本日最後のプログラムは「フェアウェルパーティ」のみ。藤原先生と水野先生のホストをされているローレンさんの家で行いました。女子生徒たちはみな浴衣に身を包み参加。お世話になったホストファミリーの前で「ふるさと」と「Sweet Caroline」を熱唱。ホストファミリーの方と最後の夜を満喫。ホストファミリーの皆さん、本当に、本当にお世話になりました。生徒たちは一生忘れない体験をしたと思います。そして、何事にも代えがたい異文化経験をしたことでしょう。Thank you so much.



お世話になったジョアンさん



Letter From Arlington, Boston

ホストファミリーとお別れ→レキシントン訪問→ボストン空港→日本へ
アーリントン高校前で最後の記念撮影



① ついにホストファミリーとお別れの日が…

朝の8時半にホストファミリーと一緒に、アーリントン高校前に集合。到着した直後から目に涙を浮かべる生徒の姿も。生徒一人ひとりが、ホストファミリーに感謝の思いを、精一杯英語で伝えていました。そして、最後の記念撮影が終わると、皆、あふれ出す感情を抑えきれなくなり、いたるところで号泣、号泣。誰もバスに乗ろうとせず、最後の別れを惜しむかのようにハグをしていました。日本でもあまりハグの習慣はありませんが、男子も女子も皆自然にハグを。一人ひとりホストファミリーと過ごした貴重な10日間は、一生の宝物となり、これからの学校生活に必ず活かすことができると思います。

名残を惜しみながらバスに乗り込みましたが、生徒もホストファミリーの方々も大きく手を振りながらアーリントン高校をあとにしました。バスの中でも生徒は大粒の涙を流し、その涙はしばらく止まることはありませんでした。





② レキシントン学習

レキシントンはアメリカ独立戦争発端の町。イギリス軍と植民地兵士軍との戦いの様子をコナー先生がとても分かりやすい英語で説明をしてくれました。質疑応答もまじえたレクチャーに生徒たちは英語を理解した笑顔と満足感が広がっていました。農夫であったミニットマンの銅像前で集合写真を撮りました。



コナー先生のレクチャー



ミニットマン像の前で記念撮影

③ ボストン空港から日本へ

現地時間13時30分、予定通りボストン空港から成田行きの飛行機に乗りました。生徒はホッとする気持ちと離れたくないという気持ちが混じりあっていたのではないのでしょうか。機内では英語の日記を書く生徒や映画を見たりしていましたが、食後はみなぐっすり眠っていました。

Ⅱ 来訪の部

1 訪日団員名簿

人数	名 前	読み	性別	学年等	備考
1	John Gusdon	ジョン・ガスドン	男	高 3	
2	Elizabeth Madden	エリザベス・マデン	女	中 2	中学生 リーダー
3	Isaac Lee	アイザック・リー	男	中 2	
4	Ben Oosting	ベン・オースティン	男	高 1	
5	Henry Walters	ヘンリー・ウォルターズ	男	高 3	高校生 リーダー
6	Ethan Thompson	イーサン・トンプソン	男	高 2	
7	Boris Gross	ボリス・グロス	男	高 1	
8	Filip Pajevic	フィリップ・パジェヴィック	男	高 1	
9	Josh Scelfo	ジョシュ・スケルフォ	男	高 1	
10	Maxwell Silvadurso	マックスウェル・シルヴァダル ソ	男	高 1	
11	Lucas Tapiero	ルーカス・タピエロ	男	高 1	
12	Paula Lozano	ポーラ・ロザーノ	女	高 1	
13	Samantha Landau	サマンサ・ランドー	女	高 2	
14	Juli McCabe	ジュリ・マッケイブ	女	高 3	
15	Julianna Byfield	ジュリアナ・バイフィールド	女	中 2	
16	Aadya Paudel	アーディア・ポーデル	男	高 3	
17	Winston Chen	ウィンストン・チェン	男	高 3	
18	Maia Masini-Patel	マイア・マッシーニ・パテル	女	高 1	
19	Erin Bradley	エリン・ブラッドレイ	女	引率	
20	Justin Bourassa	ジャスティン・ボラッサ	男	団長	

2 訪問日程

月 日 (曜日)	時 刻	行 程
7月4日 (水)	19:50 21:00	伊丹空港 着 長岡京市役所到着後、各ホストファミリー宅へ移動
7月5日 (木)	8:30	市長表敬訪問 二条城散策 くら寿司で昼食 平安神宮散策 ハンディクラフトセンターで工作体験
7月6日 (金)	9:30	東映太秦映画村散策 京都調理専門学校で調理体験 桂川イオンモールで自由散策 (荒天のため)
7月7日 (土)		ホストファミリーデー
7月8日 (日)		
7月9日 (月)	10:00 20:00	東大寺・奈良公園散策 大阪城、梅田スカイガーデン観光 夕食後、電車で移動、市役所解散
7月10日 (火)	9:30 13:30 15:00 19:00	楊谷寺見学 乙訓高校で水球体験 イズミヤ長岡店でショッピング カラオケレインボー カラオケナイト
7月11日 (水)	8:30 15:00	長岡第十小学校で交流プログラムに参加 すくすく教室に参加
7月12日 (木)	8:20 17:00	西乙訓高校で交流プログラムに参加 部活動体験
7月13日 (金)	8:30 19:00	長岡第四中学校で交流プログラムに参加 部活動体験 産業文化会館 フェアウェルパーティ
7月14日 (土)		ホストファミリーデー
7月15日 (日)	11:30 12:30 14:35	長岡京市 発 伊丹空港 着 伊丹空港 発 ボストン 着

3 訪日団 引率者 挨拶

Good morning, Mr. mayor and Mr. Ooki.

市長様、教育次長様、おはようございます。

When I first visited Nagaokakyo in 2010, I never could have guessed I would be so fortunate to be part of this sister city relationship like I have for the last 8 years. 私が 2010 年に最初に長岡京市を訪れた時は、8 年もの間、姉妹都市事業の一端を担えるような幸運に恵まれるとは想像できませんでした。

Now, while I' m helping lead this delegation of students our largest group ever- I feel so excited and relieved now that I' m back in my hometown here.

今までで一番大きな規模であるこのアーリントンの生徒たちのグループの引率として、この町に戻ってきて、私はとても興奮しており、ほっとしています。

My time in Nagaokakyo wasn' t easy- I felt very homesick for my students, my friends, and my family in Arlington.

当初、長岡京に来たときは、楽な時ばかりではありませんでした。私がアーリントンで担当していた生徒や、私の友人、家族を思い出してホームシックになっていたからです。

But I knew that the chance to teach in Nagaokakyo and to live in this beautiful city was an opportunity I could not waste.

しかし、長岡京市で教師として、教えられること、この美しい町に住むことができることはまたとない機会だと感じていました。

And now, when I' m in Arlington, I feel homesick for Nagaokakyo city. And not because of the beautiful Nagaokatenjin shrine, or the maple leaves that look like heaven at Komyo-ji temple.

そして現在は、アーリントンに戻ってからは、長岡京市が恋しく、ホームシックになっています。それは、美しい長岡天満宮のためでも、幻想的な光明寺の紅葉のためでもありません。

I don' t only miss the ritual Caitie and I shared of going for a walk every Sunday morning into the mountains after visting Mister Donut.

毎週日曜日の朝に、イズミヤのミスタードーナツに寄った後、長岡京市 A E T だったケイティと一緒に西山の方への散歩を欠かしたことはありませんでした。

I' m homesick for all of the people in this city.

When I felt sad or sick, all of the people in Nagaokakyo city made me feel happy, and took care of me and shared themselves and their families with me.

私は、この町の人々を思い出してホームシックになっています。

私が悲しいときや辛い時、長岡京市の人々は皆、私を嬉しい気持ちにさせてくれたり、気遣って彼らの家族とのひとときを私に共有してくれました。

That is what makes me this city so special. The relationships people spend time and energy and love on. Now that I' m home in Nagaokakyo, 人との関係、活気に溢れ、愛すべき過ごした時間こそ、この町が私にとって特別である理由です。そして、今、私は長岡京を身近に感じています。

I can' t wait to share all of my favorite parts and people of this wonderful sister city relationship with Ms. Erin Bradley and our 18 students.

私はこの素晴らしい姉妹都市の大好きなところや大好きな人達のことを引率やエリンや、18名の生徒たちと分かち合えると思うと、待ちきれません。

It seems to be the case that with technology and politics in the modern world. So many places in the world want to to focus on making themselves successful. 科学技術や政治が繁栄する現代社会では、多くの場合、いかに自分自身が成功するかということに焦点を当てがちです。

But this visit, this sister city relationship, these host families, and these young people are here to demonstrate how powerful sharing and building relationships can be.

しかし、この滞在、姉妹都市の関係、ホストファミリーやここにいる若者たちは、互いの国の相互交流で、築き上げてきた信頼関係がどれほど強固なものかを示してくれていると思います。

So whether it is our first time experiencing this wonderful relationship, or we' re staying with students 'families we hosted in Arlington or returning to Nagaokakyo city.

この素晴らしいプログラムを初めて経験する人もいれば、アーリントンで受け入れた生徒の家庭に滞在する人もいます。長岡京市に再び戻ってきた人もいます。

I want to thank you from the Bottom of my heart, not only for everything this sister city relationship has given to me personally, but for your continued dedication to hope, sharing, friendship, and love so that our children can continue making this world feel smaller and more united.

私は心から感謝します。姉妹都市が私に個人的に与えてくれたもの全てあなた方が希望、友情、愛を分かち合ってくれて、子どもたちがこの世界を絆で結ばれたった一つの世界だと思っていることに。

On behalf of the Arlington public school system, the board of education selectmen, and the citizens of Arlington, thank you for hosting us again this year. We look forward to the day you can come visit us in Arlington. Thank you very much!

アーリントンの公立学校、教育委員会や市民を代表して、私たちを今年も受け入れてくれたことに改めて感謝申し上げます。あなた方がアーリントンを訪問されることをこころよりお待ちしております。ありがとうございました。

4 訪日団生徒リーダー挨拶

中学生リーダー挨拶

Hi my name is Elizabeth Madden. I am one of the student leaders.

My family has hosted Japanese students from Nagaokakyo for the past 3 years.

私の名前はエリザベスマデンです。私は生徒リーダーの一人です。私の家族は長岡京の日本人生徒を過去三年に渡って受け入れてきました。

It is a wonderful experience to learn about another culture and meet new people.

As soon as I heard about this trip, I knew it was something I wanted to do.

別の文化を学ぶこと、新しい人との出会いは素晴らしい経験です。

この訪日について聞いた時、これは私がずっとやりたかったことだと気づきました。

I love exploring new places and having adventures.

We just arrived in Japan and it is already so amazing. Thank you for hosting us. We are looking forward the rest of our time here.

私は見知らぬ土地を冒険するのが大好きです。私たちは日本についたばかりですが、既にワクワクしています。私たちを受け入れていただいてありがとうございます。残りの滞在期間も楽しみにしています。

高校生リーダー挨拶

Hello. My name is Henry Walters. On behalf of the coordinators, chaperones, and students of Arlington, I would like to personally thank the people on the Nagaokakyō side

私は、ヘンリーです。アーリントンから来た生徒一同、引率、コーディネーターを代表して、長岡京の皆様にお礼を申し上げます。

Mayor Nakakoji for having us in this beautiful, exciting, and historic city; the coordinators here for working so that we may enjoy this wonderful country; and the students and families who are graciously giving us a place to stay and who so passionately keep our sister-city partnership strong.

この美しいわくわくするような歴史の町に私たちを呼んでくださった中小路市長、そしてこちらで準備してくださった皆様のおかげで私たちはこの美しい街を楽しむことができます。そして、私たちをうけいれてくださったホストファミリーや生徒の皆さんが、この姉妹都市の絆をますます強くしてくれています。

My family has been involved in the sister-city program since 2013. In fact, I have been to Nagaokakyō before. It has been half a decade since that trip, but it has always remained the best experience of my life thus far.

私の家族は、2013年からこのプログラムに関わってきました。私は、以前にも長岡京市に来たことがあります。あれから5年になりますが、あの旅行は、いつも私の人生の最高の経験として思い出に残っています。

when I was younger, it was my dream to come to Japan. During my last trip, I bought myself a Daruma doll and filled in one eye, vowing to come back one day. Now, I am older and wiser. I can appreciate this trip better than my younger self could.

小さなころは、日本に来ることが夢でした。前回の訪問の時、私はだるまを買って片方の目を塗り、いつかまた帰って来ることを願いました。そしてようやく年を重ねより大きくなって帰って来ることができました。今回の訪問が、以前よりももっとより良いものになることを願っています。

I am very glad to be back. I can guarantee you that just standing here again makes this my new favorite moment in my life.

ここに帰って来てとてもうれしく思っています。ここに再び立っていることは、私の人生の最高の瞬間です。

We, the students of Arlington, learn much about the rich culture of Japan just by stepping outside. Nagaokakyō and Arlington have been sister cities for thirty five now.

私たち、アーリントンの生徒たちは、日本の深い歴史をたくさん学びたいと思っています。長岡京とアーリントンは姉妹都市として 35 年になります。

This year, the students of Arlington have been meeting each week to prepare for this marvelous trip. This past April we had the honor of hosting the students of Nagaokakyō as well.

今年、私たちはこの素晴らしい訪問のために毎週日本の勉強をするためのミーティングに参加しました。そして 4 月には、長岡京の生徒をホストすることもできました。

Over the years, participants have gained knowledge and connections that would not have been existed if not for this exchange. Each of us Arlingtonions are greatly humbled by being here. Yet again, I would like to thank those involved for making this possible, and I hope we continue this tradition for many more years to come. 毎年、このプログラムの参加者はこの交換事業がなければ決して得られなかったであろう知識や絆を得ることができました。

私たちは、ここにいることをとても感謝しています。最後に、このような機会を与えてくださった人々に感謝します。このプログラムがこれからもずっと続いていくことを願っています。



アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会

学校教育課

第1号

★★主なプログラム 平成30年7月5日★★

表敬訪問、二条城、くら寿司、ハンディクラフトセンター

Visiting City Hall and Yokokuji Temple



初日はあいにくの雨の中、市長を表敬訪問しました。

Our Arlington visitors came in cool and rainy weather but with a warm welcome from the mayor.



雨ニモ負ケズ、二条城周辺を歩きました。

Dampened socks but not spirits at the shogun's Nijo Castle downtown.



初体験の回転寿司！何皿食べましたか？

Endless conveyor belt sushi brought out some remarkable (nearly) endless appetites!



ハンディクラフトセンターで七宝焼に挑戦！

What's better than a hand-made souvenir? A self-made one!



アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会 学校教育課 第2号

★★主なプログラム 平成30年7月6日★★

太秦方面観光（映画村、調理師専門学校、京都桂川イオンモール）

Trip to Kyoto City, Movie Park, Culinary School, and Shopping Mall



サムライたちと記念撮影！

Learning *bushido* (and *bushi-don'ts*) with samurai at the Uzumasa Movie Village taught life lessons



調理専門学校で、日本食づくりを初体験！

Cooking school students became the teachers of Japanese cuisine at an academy nearby.



忍者修行しました！

Surely *shuriken* (ninja stars) should be in a schoolteacher's skillset!



イオンモールでUFOキャッチャーに挑戦。

お土産たくさんとれたかな！？

These two seem caught in the crane machine craze!



アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会 学校教育課 第3号

★★主なプログラム 平成30年7月9日★★

Travel to Nara and Osaka (Todaiji Temple, Nara Park, Osaka Castle)



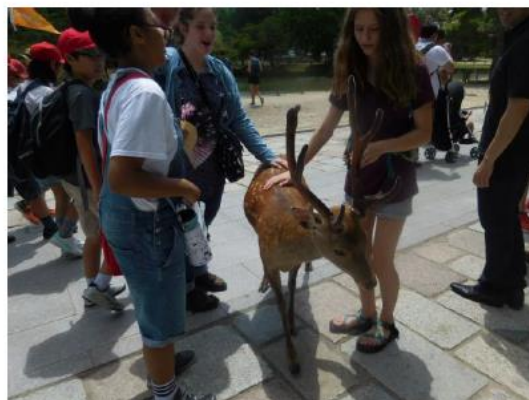
巨大な大仏は身長は何倍もの大きさ！
Students measured up to the Great Buddha of Nara.



柱から出てきて、ポーズ！
This passage to enlightenment is the same size as a nostril of the Great Buddha, if you can get that through your head!



入口でお線香の香りに包まれました。
Here, the scent of incense was intense!



鹿の角にびっくり！
Students made some four-legged friends in Nara Deer Park.



餌をあげていたら、囲まれてしまいました。
Oh, dear! You had me at 'deer biscuit.'



快晴の中、そびえ立つ大阪城はスケール大！
Casting calls opened for the castle crew at Osaka Castle.



プレートの上には大阪名物、お好み焼きです！
Frying and trying an Osaka favorite: *okonomiyaki* (Japanese savory pancakes).



沢山歩いたこの日、お疲れ様でした。乾杯！
Everyone enjoyed hot food and cold drinks after a long day. *Konpai!* Cheers!



アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会 学校教育課 第4号

★★主なプログラム 平成30年7月10日★★

楊谷寺・乙訓高校での水球体験・カラオケナイト

(Yokokuji Temple, Waterpolo at Otokuni High School, Karaoke Night)



お寺で琴を弾くのは新鮮な体験でした。

Students kept with the tempo on the koto at Yokokuji Temple (Nagaokakyo).



乙訓高校で水球体験！見事なチームプレー！

Here they pooled some team spirit for water polo at Otokuni High School.



楊谷寺前での集合写真。

Here's a gathering of curious minds outside the temple.



カラオケナイトでは、皆大盛り上がり！

Cue the music and jump the queue for karaoke night!



アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会 学校教育課 第5号

★★主なプログラム 平成30年7月11日★★

長岡第十小学校

(Nagaoka 10th Elementary School)



小学校では全校を挙げて歓迎されました。

They rolled out the red carpet for the student-teachers at the 10th elementary school.



習字体験！漢字は難しい。

Writing Japanese...more difficult than listening?



日本で初めての授業体験！日本語の内容にはついていけましたか？

Arlington students attempted a total immersion lesson. No books needed!



小学生たちと沢山遊んで、交流！

Play time: the same in all cultures.



アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会 学校教育課 第6号

★★主なプログラム 平成30年7月12日★★

西乙訓高校

(Nishi Otokuni High School)



実験では化学反応にびっくり！

Students sparked good chemistry at Nishi Otokuni High School.



アーチェリーにトライ。狙いを定め、射る！

Students aimed for success through Japanese *kyudo*. Draw and shoot!



全校集会でパフォーマンスしました。

This was a lovely cross-cultural welcome for students.



茶道体験。抹茶は苦かったかな？

Students enjoyed a green tea ceremony. They liked it very 'matcha.'



アーリントン訪日団 友好紀行

長岡京市教育委員会 学校教育課 第7号

★★主なプログラム 平成30年7月13日★★

長岡第四中学校

(Nagaoka 4th Junior High School)



英語の授業では、勿論、先生役です！

Here's an English lesson from a native speaker. Don't drop your 'r's!



卓球での打ち合い。ラリーは続きましたか？

Here students were up against the year-round table tennis club. Get the top spot with your drop shot!



折り紙はだんだん上達していました。

Don't crane your neck practicing origami!



剣道の稽古。かけ声に合わせて、面！胴！小手！

Let's try out our *shinai* (kendo swords). Don't forget your battle cry!



アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会 学校教育課 第8号

★★主なプログラム 平成30年7月13日ー7月15日★★

フェアウェルパーティ

(Farewell Party: the Last Moments Together)



着物や甚平姿で、ホストの生徒たちと。

Everyone was dressed to impress! Students wore *kimono* and *jinbei* for the party.



市長や市議会議員が作品を審査しました。

The mayor and council reviewed students' *origami* technique.



折り紙コンテスト！練習の成果は…？

Students folded their way to the finals for the *origami* contest.



日本語でホストファミリーへの思いを、スピーチしました。

Nihon-go for it! These speeches were given to host families in Japanese!



パーティの最後は、全員で大合唱！「Sweet Caroline」は会場全体が盛り上がりました。
Everyone's big voices and hearts celebrated Boston pride.



いよいよ出発日。涙のお別れ…。
It's not goodbye forever...with technology comes endless boundaries and extended families.



パーティも終わり、記念撮影タイムです。
Here are your Arlington All-Stars. Everyone made smiles and good memories.



旅立ちの時。またいつか会える日まで…！
Until we meet again!